

# 第2四半期 決算説明資料 (2023年度)

2023年12月 8日



# 2023年度 第2四半期 決算概要

## 2023年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ引き下げられたことにより行動制限の緩和が進み、景気回復が続いているものの、欧米各国での金利引き上げに伴う円安や、資源価格の高騰、ウクライナ情勢長期化などから先行きは依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、新型コロナウイルス感染症対策向けマスクの受注がピーク時から減速をしておりますが、製品売上高は40億98百万円と前年同四半期比で6.9%の減少に留まりました。一方、商品は前年同四半期以上の受注もあり、15億2百万円と前年同四半期比14.4%増加しております。このような状況から、売上高全体は56億1百万円と前年同四半期比2.0%の微減となりました。
- また、利益面では、引き続き効率的な生産体制を継続しましたが、製品売上高減少や資源価格の高騰の影響が大きく、製造原価率は3.7ポイント悪化したことを受け、売上総利益は17億64百万円と前年同四半期比8.8%減となりました。
- 一方、販売費及び一般管理費は、社会経済活動の正常化にともなう広告宣伝費などの増加に加え、前年度から進めている次期基幹システムの構築に係る費用もあり、16億13百万円と前年同四半期比では5.6%の増加となりました。
- 以上の結果、営業利益は1億50百万円、経常利益は1億56百万円、四半期純利益は1億4百万円となりました。

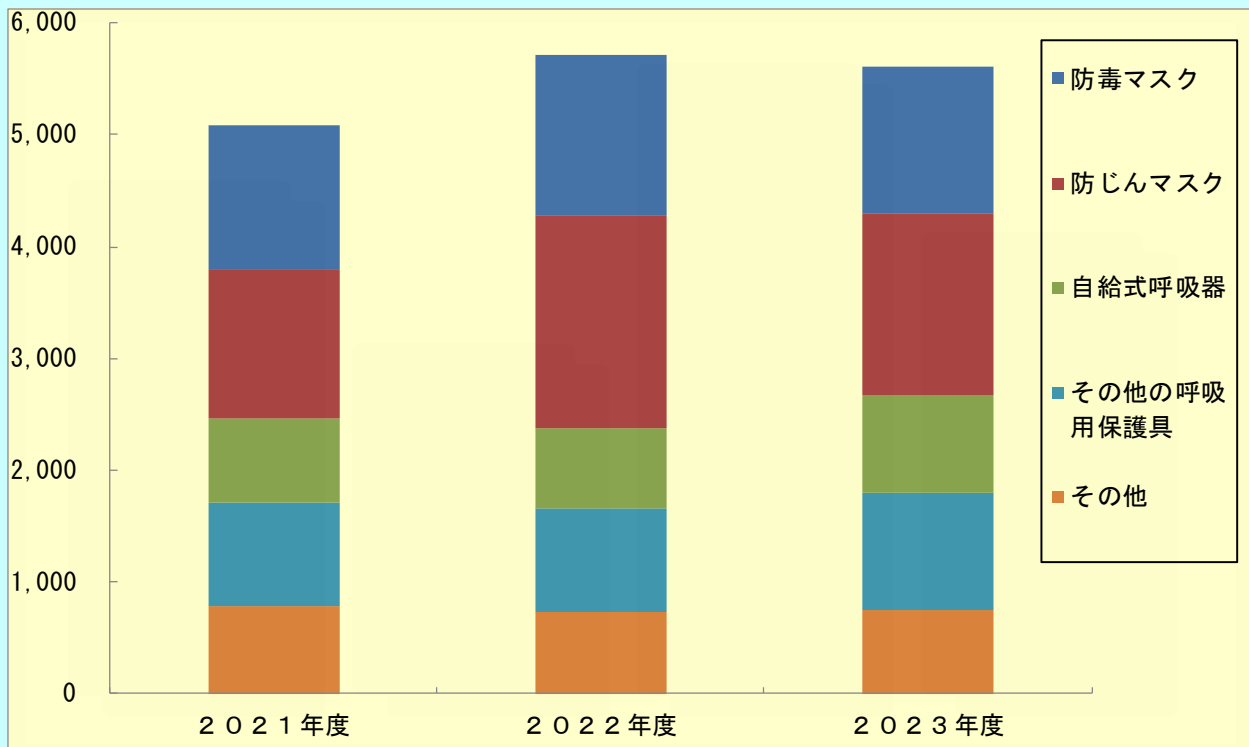
# 2023年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	22年度第2四半期	23年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	5,718.1	5,601.6	△116.5	新型コロナウイルス感染症対策マスクの受注がピーク時より減速したことから、売上高は56億1百万となりました。
製品製造原価	2,891.8	2,839.9	△51.9	前年同四半期比で、製品製造原価が51百万円減少、商品原価が1億5百万円増加し、売上原価全体では53百万円増加となり、売上総利益は1億70百万円減少の17億64百万円となりました。
商品原価	891.8	997.6	105.8	
売上原価	3,783.6	3,837.5	53.9	
売上総利益	1,934.6	1,764.1	△170.5	
販売費及び一般管理費	1,527.9	1,613.8	86.0	販売費及び一般管理費は、前年同四半期比で86百万円増加して、営業利益が2億56百万円の減益となりました。
営業利益	406.7	150.3	△256.4	営業外収益は今年度から受取ロイヤルティが無くなったことから、31百万円減少した結果、経常利益も前年同四半期比で2億82百万円の減益となりました。
営業外収益	57.4	26.1	△31.3	
営業外費用	24.6	19.4	△5.2	
経常利益	439.4	156.9	△282.5	今期は製造機械等の固定資産除却損が少なく、特別損失の計上は前年同四半期比で1百万円減少しました。
特別利益	—	—	—	
特別損失	4.1	2.8	△1.4	
税引前四半期純利益	435.3	154.1	△281.2	
法人税、住民税及び事業税	87.3	54.2	△33.1	法人税等調整額を含めた税負担後の四半期純利益は1億4百万円、前年同四半期比で2億5百万円の減少となりました。
法人税等調整額	38.8	△4.2	△43.0	
四半期純利益	309.2	104.1	△205.2	

## 第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

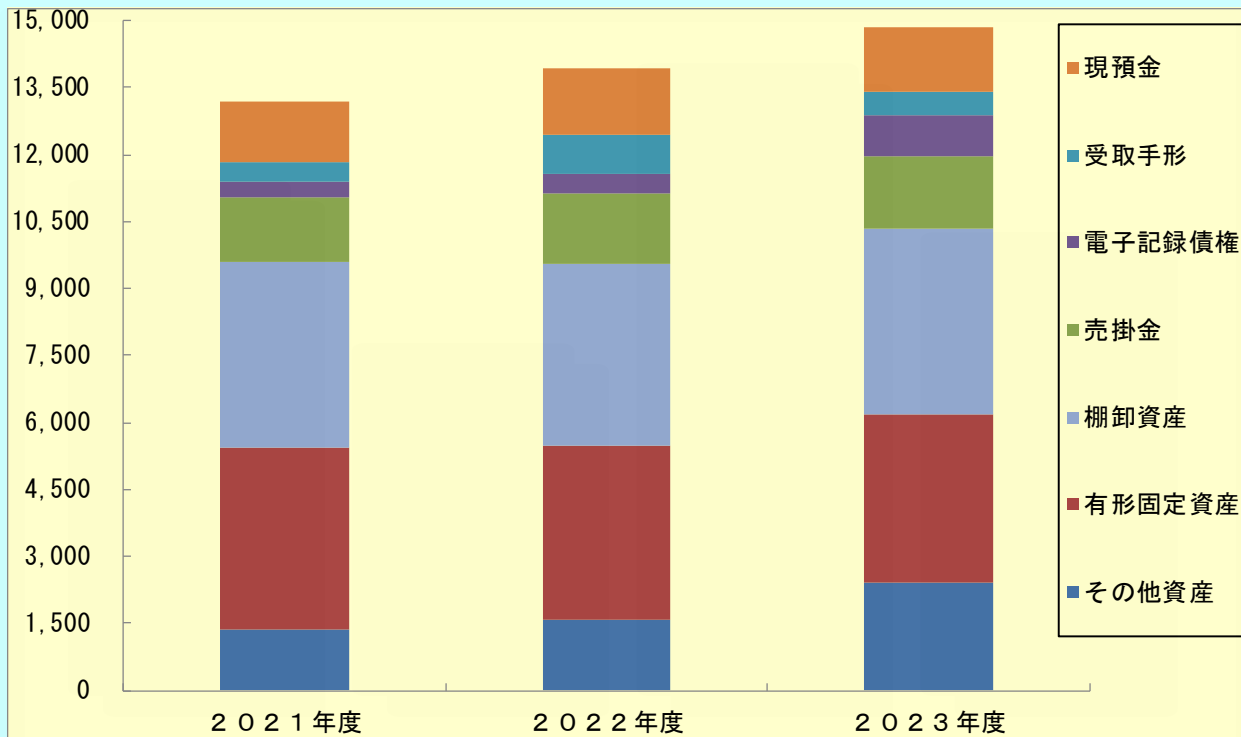
	2021年度	2022年度	2023年度
防毒マスク	1,301.5	1,444.6	1,299.3
防じんマスク	1,336.0	1,901.2	1,621.6
自給式呼吸器	745.2	707.7	884.1
その他の呼吸用保護具	930.4	931.7	1,043.1
その他	779.2	732.9	753.6
合計	5,092.4	5,718.1	5,601.6

### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、景気回復が続いているものの、各国での金利引き上げに伴う円安や、資源価格の高騰などから先行きは依然として不透明感を残しております。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策向けマスクの受注がピーク時から減速したことにより、製品売上高は40億98百万円と前年同四半期比で6.9%の減少、商品売上高は前年同四半期以上の受注もあり、15億2百万円と前年同四半期比で14.4%増加しております。
- ③ 主要品目別の売上高は、防毒マスク、防じんマスクは前年より減少したものの、自給式呼吸器が前年同四半期比で1億76百万円の増加、その他の呼吸用保護具は1億11百万円の増加となりました。
- ④ また、その他の売上高は、保護衣等を中心に、前年同四半期比20百万円の増加となりました。

## 第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度	2022年度	2023年度
現預金	1,361.3	1,458.1	1,433.6
受取手形	412.2	884.5	560.2
電子債権	370.3	432.7	925.0
売掛金	1,450.7	1,607.6	1,615.8
棚卸資産	4,139.1	4,055.0	4,143.8
有形固定	4,075.3	3,886.6	3,790.2
その他資産	1,374.4	1,595.6	2,394.7
総資産	13,183.3	13,920.1	14,863.3

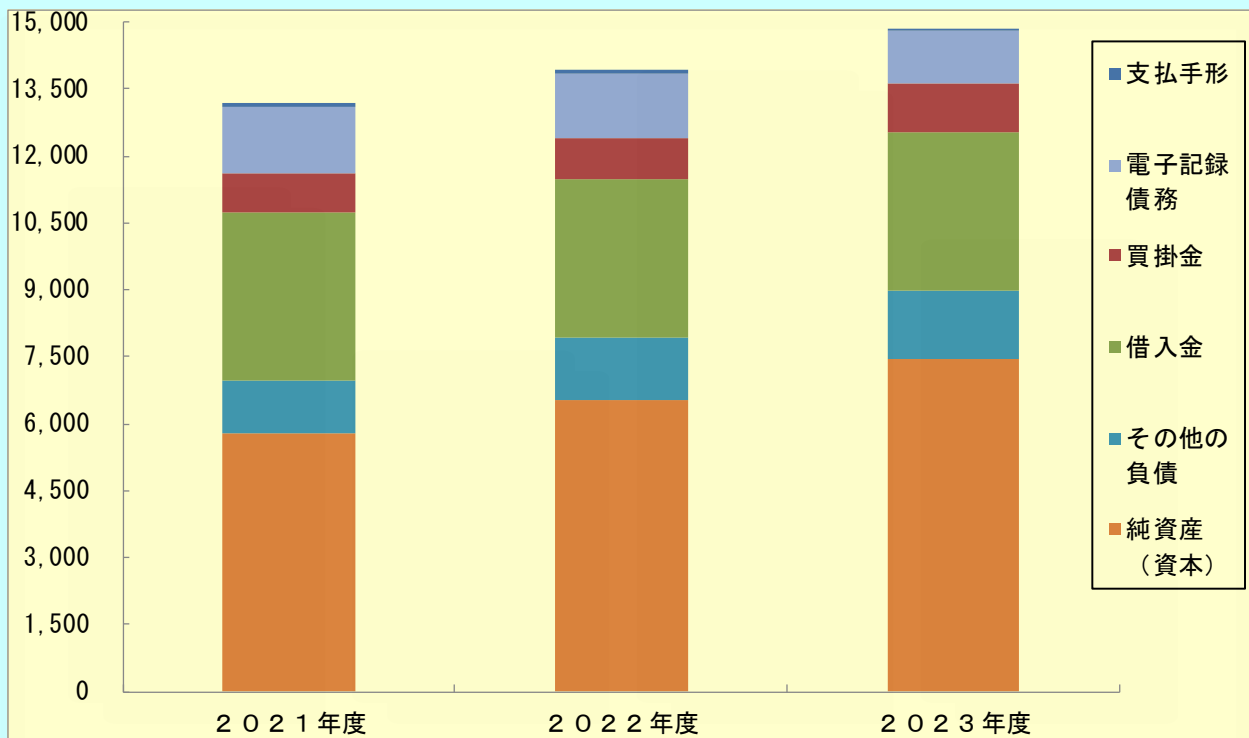
### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 現預金の残高は、前年同四半期比で24百万円減少しましたが、これは通常の変動の範囲内にあるものです。
- ② 売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）残高は、前年同四半期比で1億76百万円の増加となりました。
- ③ 年度後半の繁忙期に向けての在庫積み増しに伴い、棚卸資産全体は、前年同四半期比で88百万円の増加となりました。
- ④ 有形固定資産は、金型を中心に減価償却が進んだこともあり、前年同四半期比で96百万円の減少となりました。

注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

## 第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



### 当第2四半期累計期間の特徴

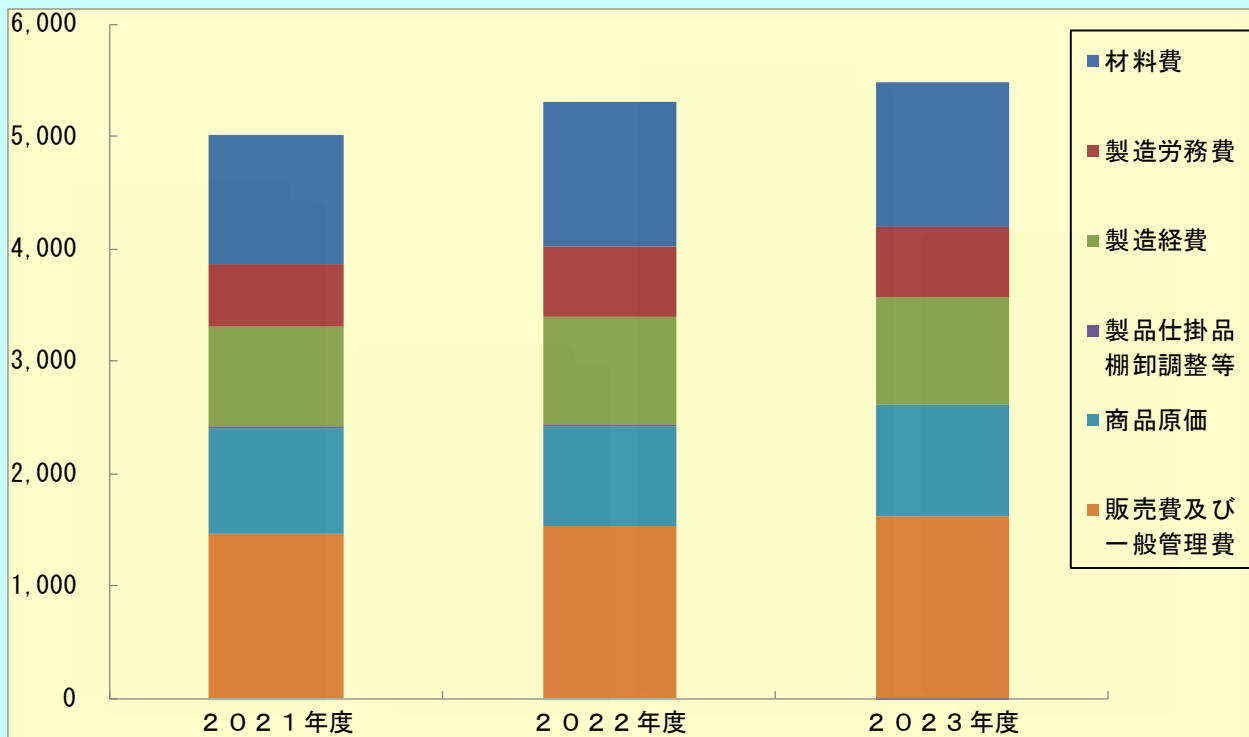
- ① 製品売上高の減少に伴う材料仕入の減少により、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前年同四半期比で97百万円減少しました。
- ② 返済がすすんだことにより、借入金残高合計では、前年同四半期比で15百万円の減少となっています。
- ③ 負債合計は29百万円増加、純資産は9億13百万円増加した結果、当第2四半期末の自己資本比率は50.2%となり、前年同四半期比では3.2ポイント向上しました。

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度	2022年度	2023年度
支払手形	70.4	85.8	44.9
電子記録債務	1,519.0	1,454.3	1,195.8
買掛金	867.7	896.0	1,097.9
借入金	3,745.0	3,535.0	3,520.0
その他の負債	1,210.0	1,406.1	1,548.2
純資産	5,771.2	6,543.0	7,456.6
合計	13,183.3	13,920.1	14,863.3

## 第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度	2022年度	2023年度
材料費	1,144.7	1,291.3	1,282.4
製造労務費	562.1	629.2	627.9
製造経費	887.4	960.9	950.5
製品仕掛品棚卸調整他	5.7	10.4	△ 20.9
商品原価	938.9	891.8	997.6
販売費及び一般管理費	1,467.0	1,527.9	1,613.8
合計	5,005.7	5,311.5	5,451.3

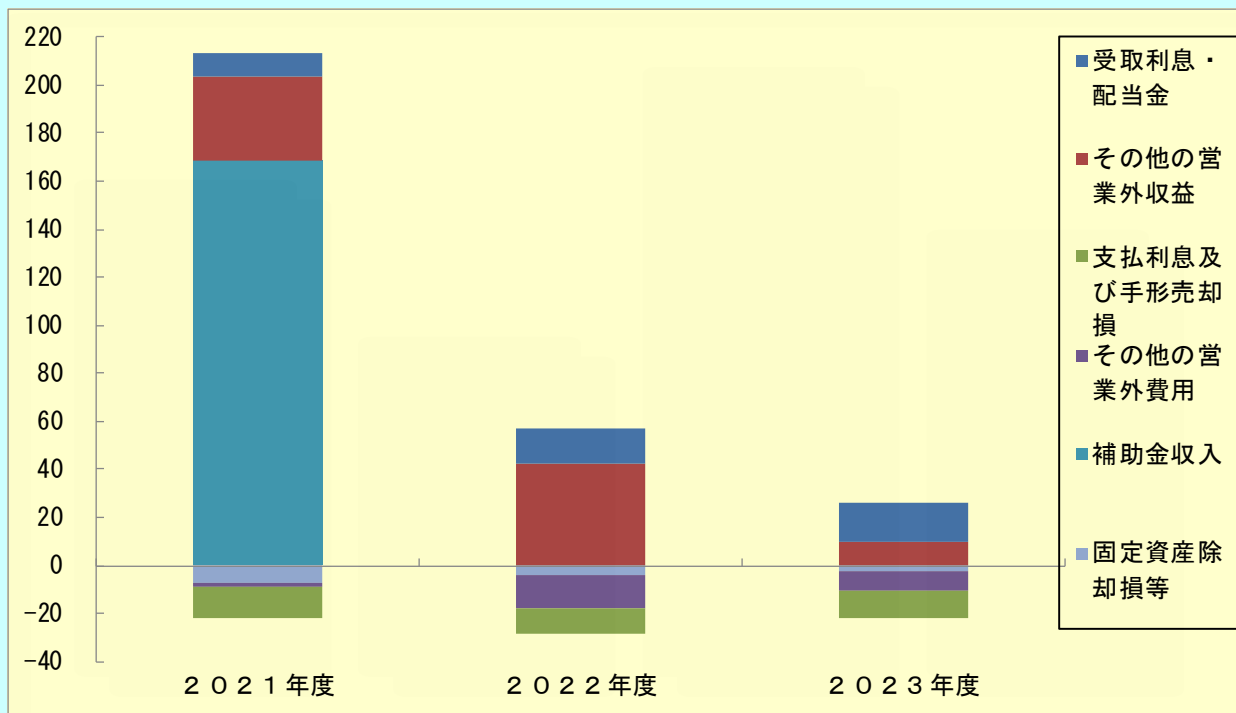
### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 材料費は、前年同四半期比で、8百万円減少しましたが、売上高に占める比率は31.4%と1.9ポイント悪化しました。製造労務費も、前年同四半期比で、1百万円減少しましたが、売上高に占める比率は15.3%と、1.1ポイント悪化しました。製造経費は、新型コロナウイルス感染症対策用向けマスクの売上高の減少もあり、前年同四半期比で10百万円減少しましたが、売上高に占める比率は23.2%と、1.4ポイント悪化しました。
- ② 自給式呼吸器の売上増により、商品原価率は66.4%と、前年同四半期比で1.5ポイントの改善となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行による各種営業活動の活発化に伴い、85百万円増加しました。



## 第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 受取利息・配当金は前年同四半期比で1百万の微増でした。また、その他の営業外収益は、受取ロイヤリティが26百万円減少したこと等から、前年同四半期比で32百万円の減少となりました。
- ② その他の営業外費用は、為替差損が6百万円減少したこと等から、前年同四半期で5百万円の減少となりました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは特にありません。
- ④ 特別損失は、機械等の固定資産除却損を2百万円計上しています。

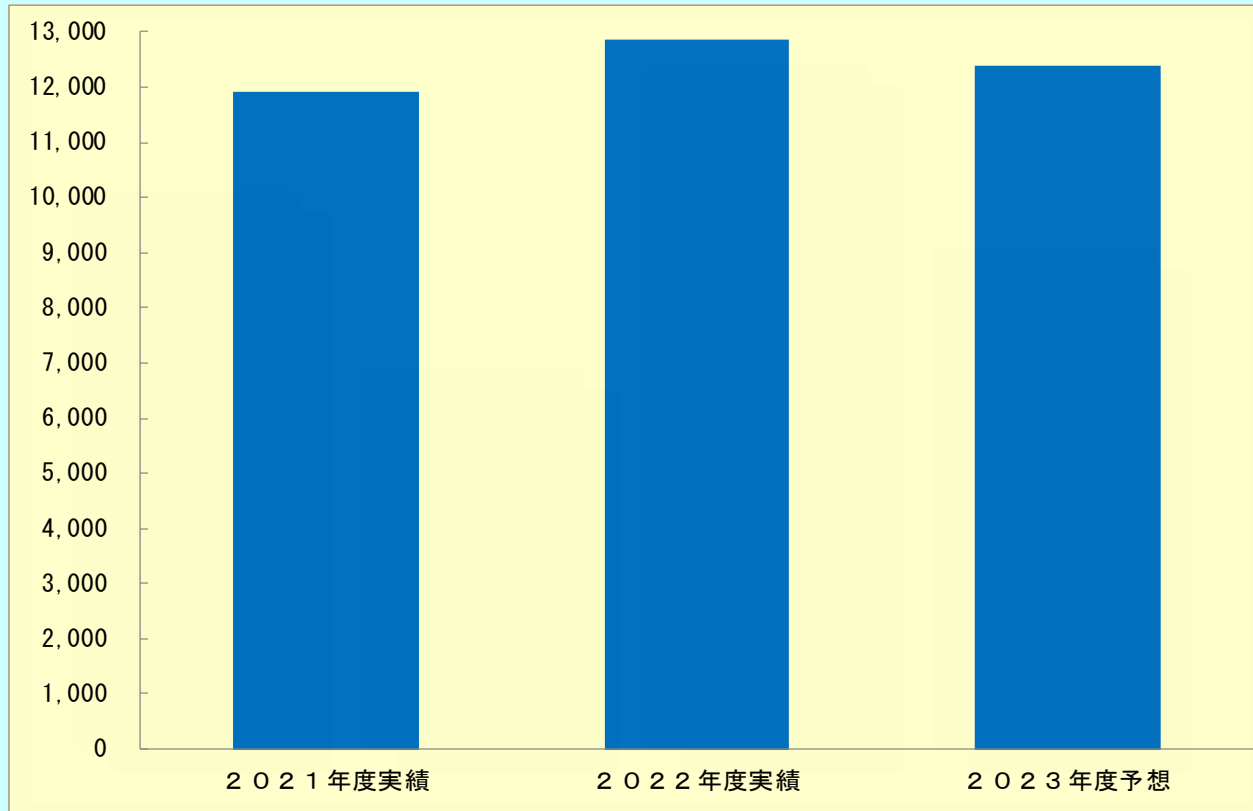
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

		2021年度	2022年度	2023年度
営業外損益	受取利息・配当金	9.4	14.8	16.0
	その他の営業外収益	35.4	42.6	10.1
	支払利息及び手形売却損	△ 12.8	△ 11.1	△ 11.5
	その他の営業外費用	△ 2.1	△ 13.5	△ 7.9
	営業外損益合計	29.9	32.8	6.6
特別損益	補助金収入	168.5	-	-
	固定資産除却損	△ 7.0	△ 4.1	△ 2.8
	特別損益合計	161.5	△ 4.1	△ 2.8

# 2023年度通期業績予想

## 2023年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度予想
通期	11,919	12,875	12,400

## 状況と見通し

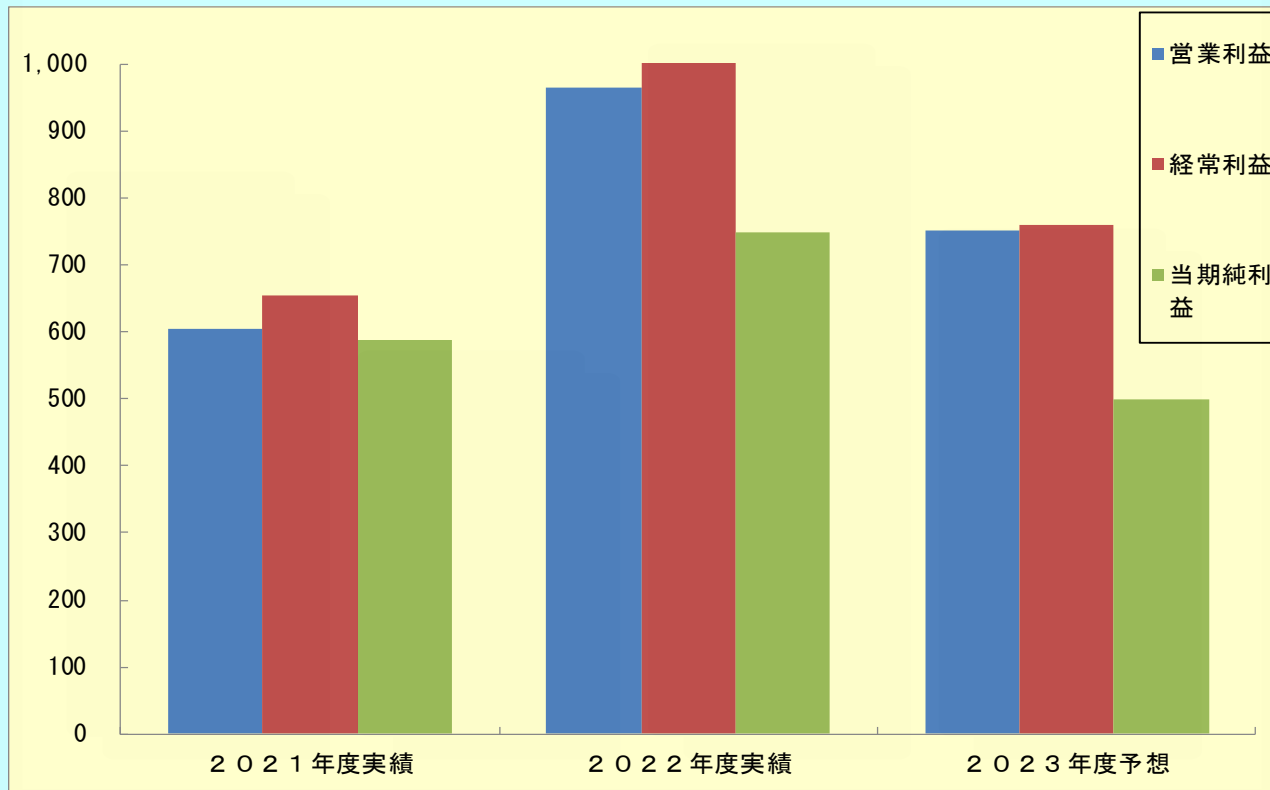
当第2四半期累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症対策向けマスクが前年度からは減速しているものの、主要顧客である製造業からの受注が堅調に推移したことから、売上高は前年同四半期比2.0%減の56億1百万円となりました。

通期の売上高予想値につきましては、主要顧客である製造業の受注動向は今後も堅調に推移していくものと思われ、現時点では本年5月に公表した124億円の予想値に修正はありません。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

## 2023年度通期の利益予想

(単位：百万円)



### 状況と見通し

下期の利益予想につきましては、我が国を取り巻く経済環境、社会情勢において、見通しにプラスマイナス要因が混在しており、不透明感があるのが実情です。以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想につきましても修正は行わず、営業利益7億500万円、経常利益7億600万円、当期純利益5億円を見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度予想
営業利益	605.1	965.1	750.0
経常利益	653.6	1,025.4	760.0
当期純利益	589.1	748.2	500.0